

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話をしっかりと聞き取る。 自分の経験や考えたことを、調べたこと等を、段落のつながりを考えながら表現する。 課題に対してねばり強く考える。 自分の考えを持って課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話の要点を聞き取ることができるように、指示の仕方や話の始め方について、決まったパターンや焦点を絞った話し方をする。 教科を問わず、メモしながら話を聞いたり、講話の内容を振り返って書いたりする活動を定期的に取り入れ、意識して聞く（書く）機会を増やしていく。 ノート指導を徹底し、板書を書き写すことを引き続き指導することで、書くことへの抵抗感を軽減させる。 じっくり考える時間を充実させるために、文学的などにおいては、文章の読み取りと意見交換する「読み深め」学習を積極的に取り入れていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料活用の仕方において、表やグラフ・地図などの読み方や、読み取った数値や事象を活用して考え表現すること、応用できる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機づけが図れるような身近な題材を取り上げた表やグラフ、地図などを定期的に授業の導入で活用し、読み取りや考察における力の向上を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認しながら課題に取り組む。 文章問題の題意を読み取り正しく演算決定する。 自分の考えを言葉や図に表してノートに表現する。 大きな数や未知数（□を使った式）を、生活体験や既習事項を振り返りながら、具体的に操作し、計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合ったコースを選択させる。九九表や具体物などを用意し、個に応じた支援できるようにする。 課題は何か、文章の中心を意識させながら、繰り返し指導する。 書き始めの文型や、分かりやすくまとめられているノートなどを提示して書き方を習得させていく。 大きな数を扱う際や□を用いて立式する際に、身近なものごとに置き換えて考えるようにしたり、□に入る数を実際に具体物を用いて操作する活動を取り入れたりする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組むとともに、根拠を考え表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる時は、理由も考えさせる。 板書は、課題→予想→実験→結果→考察の基本の流れを明確する。論理的な思考を視覚的に補い、繰り返し指導していく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に適した課題をもって、それを達成するために必要な力や動きを身に付けるように工夫できる。 決まりを守って楽しく仲良く運動に取り組み、互いに助言し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでできばえを見あう場、助言し合ったり作戦を練ったりする場など、運動の特性に合わせて児童同士が関わる場を設ける。 話し合いの軌跡をたどることができるように、運動量に影響が出ないように配慮しながら、学習カードを積極的に活用する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中でさらにそれを深めたり、改めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりで、ねらいについての自分の考えが、深まったり変化したりしたことが分かるような板書の仕方にする。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。 考えたことや実生活にいかそうとする心情を見取ることができるように、感想カードやノートなど記録に残す取り組みを行う。

総合	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために集めた資料から、大切なことを見つけて、自分なりにまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなに伝える方法として、劇・紙芝居・工作・クイズ・ペープサート・新聞などの手段があることを指導していく。各グループの発表の良いところをみんなの前で紹介するなど、学びを広げる場を確保する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音程や声に大きさを、周りの声を聴きながら合わせて歌う。 音色に気を付けて息圧を調節しながらリコーダーを演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴かせる，グループごとに歌うのを聴くというように聴く活動を取り入れて声の出し方について目当てをもたせるようにする。 持ち方や息圧に注意してリコーダーを演奏できるように，3音でできる曲から少しずつ使う音域を広げていくようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守って、安全に配慮しながら活動する。 絵の具など、道具の基礎・基本の使い方ができる。 身近な作品を楽しんで鑑賞し、自分なりにおもしろさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作に集中し、力を高めあえる環境になるよう、基本の学習姿勢については、根気強く習慣化するまで指導にあたる。 基本の使い方を、その都度復習し、定着するよう個別指導を行う。 鑑賞は対話型を主にする。鑑賞のポイントや使える言葉などを事前に提示する。